

議題2 構想達成に向けての各関係機関の取組み状況について

平成28年3月に愛媛県地域医療構想が制定されてから、各関係機関（病院・診療所・老人保健施設等）が構想達成に向けて自主的な取組みを実施している。

しかし、各関係機関が実施している取組み内容やその進捗状況については、情報共有されていない。

他の関係機関の取組み等を把握することは、次①及び②等のメリットが考えられる。

- ① 手つかずの課題等が明確になることで、課題が解決されずに放置されることを防止できる。
- ② 類似した取組みを実施している関係機関があれば協力する等の対応が可能になる。

そのため、各関係機関の取組み等を発表し、情報共有できる場を設けることにした。

【各関係機関の取組み状況発表の流れ】

- ① 事業区分ごとに関係機関が順番に発表を行う。
- ② 発表の順番は、別添取組み状況表の左側の機関からとする。
- ③ ひとつの事業区分の発表終了ごとに質疑応答を行う。

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分1:病床の機能の分化及び連携の推進)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	内容	No.	内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合					
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金		
		⑯	病床の機能転換により医療ニーズの増加が見込まれる回復期医療を担う医療従事者を育成する必要があります。								将来的に設置を予定している地域包括ケア病棟専門の医師を配置する計画です。		リハビリテーション科主催の「四国中央リハケア勉強会」を下記の通り開催した。 ・H28年3月19日第7回「口から食べたい ～家族の希望、どう叶える?～」 ・H28年6月18日第8回「できることからはじめよう!～更衣へのかかわり方～」 ・H28年9月17日第9回「車いす生活を支援する～自動車への乗り降りについて～」 ・H28年11月19日第10回「認知症ケアのプロになるろう!」 ・H29年3月4日第11回「『高次脳機能障害』ってなに?～失語症、注意障害、記憶障害について														
		⑰	喫緊の課題である脳神経外科・循環器科等の医師をはじめ、救急医療を担う人材、地域医療に必要な医療従事者を確保するとともに、当構想区域内への定着を促進する必要があります。							東中予および西讃で不足している呼吸器診療を担うための呼吸器センターの設置を計画しています。本年4月から一名の専門医が赴任予定です。	△	・H22年度より、愛媛大学地域医療再生学講座セライトセンターにより、脳神経外科医師を受入れ、診療並びに地域での啓発・教育・研修活動を行っている。 ・H28年4月より循環器内科を2名体制とし、循環器疾患の診療機能を強化した。 ・H28年4月1日より愛媛大学医学部より、初期臨床研修2名研修開始。 H29年度は研修枠が2名から3名に増枠認定。 ・H30年度より総合診療医基幹型プログラムを開始予定。															
②	医師会をはじめとする各種団体や各医療機関は、医療機関等の円滑な連携を図るため、ICTを活用した地域ネットワーク基盤の整備に取り組みます。	⑥	限られた医療資源の中で、医療機関ごとの役割分担や当構想区域ごとの医療提供体制を明確化することで、医療資源の有効活用と医療機関・構想区域間の連携強化を図る必要があります。							ICTを利用した3次医療機関との連携を検討しています。		H29年度愛媛県医師会基金事業地域ICT補助申請。	□												医療機関ごとの役割分担について、HP及び市報等により市民への意識啓発を実施している。小児救急の意識啓発のために作成したDVDを活用するため、急患センター及び小児検診時に放映している。また、希望診療所にTVを移動設置している。		
		⑧	地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。							「愛媛県看護協会版タウンミーティング」を開催した。 【日時】7月6日 【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設 【目的】 1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。 2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。																	情報共有のツールとしてH24年に地域生活連携シートを作成し、H25年度より運用を開始している。年に2回のワーキンググループ会議では、活用状況に関するアンケート調査の結果を踏まえて、今後の活用方法について検討をおこなっている。H28年2月末時点では、7割がシートを活用しているという状況であるが、使用頻度にはばらつきがあり、半数以上が活用による連携の効果を得られていない結果であった。

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分1:病床の機能の分化及び連携の推進)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	内容	No.	内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合					
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金		
		⑨	医療・介護の連携を地域で進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの整備が必要です。										H29年度スマートフォンを利用した、医療介護連携システム「メディカルケアステーション」を試験導入予定。									医療機関、施設、居宅介護支援事業所等関係機関へのアンケートでは、ICTの必要性について、必要であるが25%にとどまっており、各医療機関の対応に差がある。顔の見える関係で情報共有すべきや個人情報の保護に不安があるという意見もある。		厚生労働省の指針に沿って、保険者でのマイナンバーカードの運用を29年7月より開始する。運用に先駆け運用のためのシステム整備、運用規程の整備を行っている。被保険者のマイナンバーはほぼ入手している。			
③	へき地診療所とへき地医療拠点病院・二次救急医療施設との連携による地域医療の確保、へき地診療所を中心とした効率的なへき地等医療体制の整備に努めます。	④	医療資源の偏在に対しては、適切なバランスの下、資源の再配分と高度化・集約化を図る必要があります。																								
		⑥	限られた医療資源の中で、医療機関ごとの役割分担や当構想区域ごとの医療提供体制を明確化することで、医療資源の有効活用と医療機関・構想区域間の連携強化を図る必要があります。							各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。			新宮診療所に当院の登録医に参加していただき、緊急時はホットラインで直接医師に患者紹介が可能な仕組みを構築している。									新宮診療所は、高度な検査機器や入院病床がないため、地域医療との連携強化を図るよう努めている。					
		⑦	脳卒中・急性心筋梗塞・がん・糖尿病などの疾病ごと、医療機能ごとに連携体制の整備が急務となっています。							各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。																	
		⑧	地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。							「愛媛県看護協会版タウンミーティング」を開催した。 【日時】7月6日 【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設 【目的】 1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。 2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。									新宮地区ではデイサービス関係者と診療所とで、毎週1回ネットワーク会議を開催し、地区内高齢者の情報共有等を行っている。								
		⑩	新宮・嶺南地区は、人口減少の中で医療資源がより乏しい地域であり、へき地等医療提供体制の整備が必要です。														新宮地区におけるデイサービスと診療所との連携(医師、歯科医師、看護師、介護職等)					デマンドタクシー運行による移動手段の確保に努めている。嶺南地区は保健師による全戸訪問を実施している。受診者数の減少の中、新宮診療所の存続が重要。(医師の確保が課題)					

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分1:病床の機能の分化及び連携の推進)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	内容	No.	内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合						
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金			
		⑥	限られた医療資源の中で、医療機関ごとの役割分担や当構想区域ごとの医療提供体制を明確化することで、医療資源の有効活用と医療機関・構想区域間の連携強化を図る必要があります。								各医療機関の機能を生かせるよう病診および病連携を強化します。		脳卒中センター、糖尿病センター、創傷ケアセンター、人工関節センター、統合型歩行機能回復センター等、自院が有する医療機能について、センターを標榜(院内)することで、機能を明確化している。(それぞれ宇摩医師会より承認済)										医療機関ごとの役割分担について、HP及び市報等により市民への意識啓発を実施している。小児救急の意識啓発のために作成したDVDを活用するため、急患センター及び小児検診時に放映している。また、希望診療所にTVを異動設置している。					
		⑦	疾患ごと・機能ごとに必要な連携体制の整備が急務となっています。								各医療機関の機能を生かせるよう病診および病連携を強化します。		地域医療介護連携課主催にて、地域の開業医を迎えての勉強会を開催した。平成28年度は3回開催している。 ・平成28年5月31日 神経内科医 京楽 格 「治療可能な認知症について」院外医師12名の参加 ・平成28年7月28日 循環器内科 山崎 宙 「当院で施行可能なインターベーション治療」院外医師2名の参加 ・平成28年9月2日 消化器外科医 湯澤 浩之 「私が行ってきた消化器外科手術」院外医師6名の参加															
		⑩	新宮・嶺南地区は、人口減少の中で医療資源がより乏しい地域であり、へき地等医療提供体制の整備が必要です。																					デマンドタクシー運行による移動手段の確保に努めている。嶺南地区は保健師による全戸訪問を実施している。受診者数の減少の中、新宮診療所の存続が重要。(医師の確保が課題)				
		⑰	喫緊の課題である脳神経外科・循環器科等の医師をはじめ、救急医療を担う人材、地域医療に必要な医療従事者を確保するとともに、当構想区域内への定着を促進する必要があります。								東中予および西讃で不足している呼吸器診療を担うための呼吸器センターの設置を計画しています。本年4月から一名の専門医が赴任予定です。	△	平成22年より、愛媛大学医学部地域医療再生学講座よりサテライトセンターに医師派遣を受け、日々の診療のみならず、市内医療関係者への啓発・教育活動を行い、人材育成に務めている。											寄附講座により医師を確保し、不足する診療科を補っている。奨学金制度を創設し、医師の確保に努めている。看護師等確保事業により、平成29年度は合同就職説明会を行うなど、医療従事者の確保に努めている。				
⑥	入院患者の口腔健康管理(口腔機能管理、口腔衛生管理及び口腔ケアを含む。)及び周術期の口腔機能管理を実施するため、在宅歯科医療連携室から歯科医師及び歯科衛生士を派遣できる体制を構築します。また、病院は、在宅歯科医療連携室に対応できるような施設整備や体制整備に努めます。	⑬	医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																									
		⑭	在宅療養支援病院及び在宅療養支援診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。											訪問看護ステーションいしかわほか、市内の訪問看護ステーションと連携し、退院患者を継続的にフォローしている。														
		⑮	住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。								歯科医療連携室は、訪問による歯科治療ばかりではなく、嚥下障害者に対するリハビリ、終末期医療としてのケアも実践している		退院支援の一環として、患者のケアマネジャーを病棟の退院支援カンファレンスに招いて、退院後の生活を見据えたカンファレンスを開催している。															
		⑰	在宅医療に携わる医師・歯科医師等医療従事者の充実を図る必要があります。								在宅で口腔ケアを実施できる歯科衛生士の研修を実施している。		宇摩歯科医師会歯科医療連携室と連携し、市内の口腔ケアを行う歯科衛生士の教育機関となっており、市内に人材を輩出している。											奨学金制度を創設し、医師の確保に努めている。				

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分 I : 病床の機能の分化及び連携の推進)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。

「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

施策		対応する課題		HITO病院	
No.	内容	No.	内容	取組み状況	基金
①	各医療機関は、病床の機能の分化及び連携を促進するため、病床機能の転換等に必要な施設・設備の整備に取り組みます。	⑦	脳卒中・急性心筋梗塞・がん・糖尿病などの疾病ごと、医療機能ごとに連携体制の整備が急務となっています。	<p>【脳卒中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年より、愛媛大学医学部地域医療再生学講座より、脳神経外科医師の派遣を受け、市内の脳卒中医療の啓発・教育・治療にて各医療機関と連携を深めている。 ・平成26年4月に脳卒中センターを開設、市内開業医とホットラインを結び、迅速な連携に務めている。また、毎年、市民対象の脳卒中相談会を市内SCにて開催している。 ・消防隊員との救急勉強会を年4回施行し、速やかに専門の医療施設を受診できるよう脳卒中病院前救護を含め前方連携の強化を行っている。 ・愛媛大学脳神経外科脳血管内治療グループとも連携し、超急性期脳梗塞に対するrt-PA静注療法の非適応例や無効例などに血栓回収療法などの血管内治療も実施している。 ・回復期に関しては、2次医療圏域内だけでなく、圏域外からも回復期リハビリテーションが必要な脳卒中患者の受け入れを行っている。 ・市内の病診・病病連携に脳卒中地域連携パスや脳卒中ノートを活用し、かかりつけ医との紹介・逆紹介の連携を進めている。 ・平成28年9月16日に「宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会」講演会を開催。 平成29年2月22日に「宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会」全体会を開催。 <p>【急性心筋梗塞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月1日より循環器内科が常勤2名体制でインターベンション治療にあたっている。 ・平成28年2月3日 市民フォーラム「健康で長生きするために」にて循環器疾患の講演。 ・平成28年9月30日 四国中央消防と合同で勉強会を開催。テーマ「緊急冠動脈造影を要する疾患について」。 ・平成28年10月4日 愛媛県立中央病院循環器内科主任部長岡山英樹Drを招いての勉強会開催。 	

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分 I : 病床の機能の分化及び連携の推進)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。

「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

施策		対応する課題		HITO病院	基金
No.	内容	No.	内容	取組み状況	
				<p>【がん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、愛媛大学病院・住友別子病院・HITO病院の3病院で「東予地域がん診療カンファレンス」を設立。3病院で定期的にWEBカンファレンスを開催し、宇摩圏域で不足している診療領域や専門職種の知見、診療経験などを補完し、地域における標準的ながん診療を推進している。 ・愛媛大学から継続的に医師を派遣してもらっている ・愛媛大学、四国がんセンター、三豊総合などへの患者紹介と、そこからの紹介が一定数ある ・四国がんセンター、松山市民病院と共通のがん看護電子カルテパス開発作業 ・がんの地域連携パスを整備中 ・がん患者の口腔ケアに積極的に取り組んでいる。 ・緩和ケア内科医と緩和認定看護師を中心に、初診時から看取りまで一貫した緩和医療を提供している。 <p>【糖尿病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月16日 日本慢性疾患重症化予防学会 代表理事 平井 愛山先生を招き、「糖尿病重症化予防研修会」を開催。(市内医療職・行政対象) ・市が開催する糖尿病教室への出前講座を昨年度から開始し、本年も3月15日に開催予定。また、来年度は全13回の全面委託予定を受けると共に市の推進する腎症予防事業への参加予定。 ・宇摩医師会にて「四国中央DMサークル」を立ち上げ、年2回の勉強会を開催している。 	

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分Ⅱ：在宅医療の充実)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	施策内容	No.	対応する課題内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合		
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	
⑦	各医療機関や関係団体は、地域住民が居宅等において安心して医療を受けることができるよう、在宅医療等に必要の人材の確保や機器等の整備を進めるとともに、多職種連携体制を構築します。	⑧	地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。						「愛媛県看護協会版タウンミーティング」の開催【日時】7月6日【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設【目的】1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。	□	各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。		在宅医療研修会を3回開催。H28年4月14日 第7回「人生最期の時をどう捉えるか多職種で語りあう」H28年9月13日 第8回「糖尿病の基礎事項と運動療法と食事療養について」H28年11月8日 第9回「在宅での感染対策もしかし？あなたが感染を広げていませんか？」											
		⑪	地域住民が身近に安心して医療等が受けられる環境を整備する必要があります。										がんチームが隔月でがんサロンを開催し、がんと家族が相談し、不安を解消できる場を提供している。											市内20地区社協単位に、住民参加による安心して暮らせる地域づくりに取り組んでおり、医療分野との連携も必要とされている。 小児科及び産婦人科が不足しているため、小児救急医療体制維持確保事業及び産科医等確保支援事業により補助している。 寄附講座により医師を確保し、不足する診療科を補っている。 奨学金制度を創設し、医師の確保に努めている。 看護師等確保事業により、平成29年度は合同就職説明会を行うなど、医療従事者の確保に努めている。
		⑫	医療的ケアを必要とする障害者等が地域において在宅で暮らせるための医療・介護体制の整備が必要です。										H28年4月1日より、神経内科常勤医師が着任し、神経難病患者の診療が可能となった。 地域包括ケア病棟にて、神経難病患者のレスパイト入院の受入を開始した。											ALS患者等たん吸引が必要な人へのホームヘルプサービスを検討中。(市が当該研修の実施を検討している)
		⑬	医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																					
		⑭	在宅養支援助病院及び在宅養支援助診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。																					訪問看護ステーションいしかわほか、市内の訪問看護ステーションと連携し、退院患者を継続的にフォローしている。
		⑮	住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。																					地域包括ケアシステムに関する生活支援体制整備事業を市より受託・実施しており、多職種との連携が必要とされている。
		⑯	在宅医療に携わる医師・歯科医師等医療従事者の充実を図る必要があります。																					生活支援の立場から、ソーシャルワーカーやケアマネジャーが医師との連携に努めている。 宇摩歯科医師会歯科医療連携室と連携し、市内の口腔ケアを行う歯科衛生士の教育機関となつて、市内に人材を輩出している。

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分Ⅱ：在宅医療の充実)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	施策 内容	No. 内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合		
			取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	
		⑫ 医療的ケアを必要とする障害者等が地域において在宅で暮らせるための医療・介護体制の整備が必要です。														ALS患者等たん吸引が必要な人へのホームヘルプサービスを検討中。(市が当該研修の実施を検討している)							
		⑬ 医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																					
		⑭ 在宅療養支援病院及び在宅療養支援診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。																					
		⑮ 住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。																			多職種研修会において、切れ目のない在宅医療・介護連携体制の構築に向けて協議をおこなっている。		
⑩	県や関係団体は、地域住民が安心して居宅等において医療が受けられるよう、各種制度や支援体制などを周知するとともに、相談体制を整備します。	⑧ 地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。					「愛媛県看護協会版タウンミーティング」の開催【日時】7月6日【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設【目的】1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。	□	各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。														
		⑪ 地域住民が身近に安心して医療等が受けられる環境を整備する必要があります。														市内20地区社協単位に、住民参加による安心して暮らせる地域づくりに取り組んでおり、各種制度等の普及も必要である。		小児科及び産婦人科が不足しているため、小児救急医療体制維持確保事業及び産科医等確保支援事業により補助している。寄附講座により医師を確保し、不足する診療科を補っている。奨学金制度を創設し、医師の確保に努めている。看護師等確保事業により、平成29年度は合同就職説明会を行うなど、医療従事者の確保に努めている。					
		⑫ 医療的ケアを必要とする障害者等が地域において在宅で暮らせるための医療・介護体制の整備が必要です。														ALS患者等たん吸引が必要な人へのホームヘルプサービスを検討中。(市が当該研修の実施を検討している)							
		⑬ 医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																			無医地区である嶺南地区に対しては、全戸訪問を実施し、健康状況を把握するよう努めている。		
		⑭ 在宅療養支援病院及び在宅療養支援診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。																					
		⑮ 住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。														地域包括ケアシステムに関する生活支援体制整備事業を市より受託・実施しており、各種制度や支援体制の普及も必要とされている。					地域住民の相談窓口として、地域包括支援センターを周知している。(チラシの作成・配布、市報に掲載、民生委員の会、出前講座などで周知)		

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分Ⅱ：在宅医療の充実)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	施策内容	No.	内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合				
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	
		⑪	地域住民が身近に安心して医療等が受けられる環境を整備する必要があります。										地域連携室を窓口に、市内の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションとの連携により、自宅で療養が出来るよう、退院患者の支援を多職種で行っている。				ふれあいいきいきサロンお世話人研修会で、終活に関する研修会を実施した。									
		⑫	医療的ケアを必要とする障害者等が地域において在宅で暮らせるための医療・介護体制の整備が必要です。																							
		⑬	医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																							
		⑭	在宅療養支援病院及び在宅療養支援診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。																							
		⑮	住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。	施策⑪の課題⑮参照	◎																		多職種研修会において、訪問看護より看取りの現状や課題について報告があった。医療介護関係者を対象に、人生最期のときをどう捉えるか～多職種で語り合う～というテーマで研修会を開催した。			
⑮	医療従事者・介護従事者と市民が自助・互助・共助を知る機会の場として、介護予防教室、リハビリテーションケア勉強会、かかりつけ医推進の講演会等を開催するなど地域包括ケアシステムの推進に努めます。	⑧	地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。					「愛媛県看護協会版タウンミーティング」の開催【日時】7月6日【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設【目的】1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。	□	各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。		地域包括ケア推進室を開設し、地域包括ケア30事業に取り組んでいる。 ・介護予防教室：市からの委託を受け、「いきいきスマイルプロジェクト」として、全48回開催。 ・リハケア勉強会：「四国中央リハケア勉強会」を下記の通り開催した。 H28年3月19日第7回「口から食べたい～家族の希望、どう叶える?～」 H28年6月18日第8回「できることからはじめよう!～更衣へのかかり方～」 H28年9月17日第9回「車いす生活を支援する～自動車への乗り降りについて～」 H28年11月19日第10回「認知症ケアのプロになろう!」 H29年3月4日第11回「『高次脳機能障害』ってなに?～失語症、注意障害、記憶障害について～」 ・かかりつけ医推進の講演会：平成29年3月5日宇摩地域医療フォーラム2017開催、市民150名参加														
		⑪	地域住民が身近に安心して医療等が受けられる環境を整備する必要があります。														市より介護予防教室(土居・新宮)を受託し、各24回開催している。また、ふれあいいきいきサロンでは、医療・介護関係者を招き学習することがある。						寄附講座により医師を確保し、不足する診療科を補っている。奨学金制度を創設し、医師の確保に努めている。看護師等確保事業により、平成29年度は合同就職説明会を行うなど、医療従事者の確保に努めている。			
		⑫	医療的ケアを必要とする障害者等が地域において在宅で暮らせるための医療・介護体制の整備が必要です。																							
		⑬	医療資源の乏しい地区において在宅医療の提供を円滑に提供することは難しいことから、効率的・効果的に在宅医療ニーズに対応していく体制が必要です。																							
		⑭	在宅療養支援病院及び在宅療養支援診療所が少なく在宅医療の提供体制の充実が必要です。																							
		⑮	住民の多くが終末期の療養場所として希望している自宅でのケアを軸として、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があります。																				一般介護予防事業において、住民主体の介護予防についての普及啓発や県理学療法士会と連携しながら地域づくりにつながるつどいの場の立ち上げ支援を行っている。			

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分Ⅱ：在宅医療の充実)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	施策内容	No.	対応する課題内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合			
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金
18	在宅医療・介護の連携のリーダーシップを担うことができる人材育成に努めます。	8	地域の医療と介護の連携を進めるための体制整備が必要です。					「愛媛県看護協会版タウンミーティング」の開催【日時】7月6日【参加施設】29施設のうち宇摩圏域9施設【目的】1.病院、福祉施設等の看護責任者、保健所担当者、看護協会職員が身近な対話の場を持ち、率直な意見交換・情報交換を行い、ネットワークを構築する。2.看護師確保・定着、地域包括ケアの推進等の問題について協議する。	□	各医療機関の機能を生かせるよう病診および病病連携を強化します。		当院・健康会・愛美会と共同で、ライフステージ毎の教育体制を作成するとともに、人事交流を行い、人材育成に努めている。													
		18	医療従事者が、安心してキャリア形成しながら地域医療に従事できる環境を整備する必要があります。																					寄附講座により研修指導医となれる医師を確保している。	
		19	医療従事者が、生涯を通じてやりがいを持って働き続けることができる環境が必要です。																						
		20	認知症を正しく理解し、対応できる医療従事者等の人材育成が必要です。			宇摩医師会から認知症サポート医養成研修に3名の医師を派遣し、認知症初期集中支援チーム設置に向け対応を行っている。																			認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバンメイトとして活動している。
		21	在宅医療に携わる医師・歯科医師等医療従事者の充実を図る必要があります。																						
19	在宅医療・介護サービスに関する住民への普及啓発に取り組めます。	22	当構想区域内各地区の医療提供体制の維持・確保のためには、受診行動に必要な情報を地域住民が適切に理解していることが求められます。																					・ケアカフェしこちゅう主催のシンポジウムに参加、H29年1月22日 テーマ「在宅医療」 ・HITO病院主催シンポジウムに参加 平成29年3月5日 テーマ「地域医療」	
																								かかりつけ医推進の講演会：平成29年3月5日 宇摩地域医療フォーラム2017開催、市民150名参加	
																								地区社協やふれあいいきいきサロンでは、医療・介護・福祉に関する話題が話し合われることがある。	
																								医療機関ごとの役割分担について、HP及び市報等により市民への意識啓発を実施している。小児救急の意識啓発のために作成したDVDを活用するため、急患センター及び小児検診時に放映している。また、希望診療所にTVを移動設置している。	
																								年に2回、地域住民対象の講演会を開催している。1回目は、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるためにをテーマに永源寺診療所の花戸先生の講演、2回目は、訪問看護の現場から、人生の最期を支えるということテーマに市内の訪問看護ステーションの看護師による講演会を開催した。	

宇摩構想区域地域医療構想達成のための関係機関取組み状況表

(事業区分Ⅲ:医療従事者の確保・養成)

※ 基金の欄(地域医療総合確保基金の活用状況を表す。)

「○」…現在、基金の交付を受けている。「◎」…平成29年度基金の交付を要望済である。「△」…次年度以降、基金の交付を要望する予定である。「□」…県単位の団体が公布を受けている基金の一部を活用している。

No.	内容	No.	内容	宇摩医師会		宇摩歯科医師会		看護協会		四国中央病院		HITO病院		長谷川病院		四国中央市社会福祉協議会		四国中央市市民部		四国中央市福祉部		大王製紙健康保険組合			
				取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金	取組み状況	基金		
20	県や関係団体、各医療機関では、女性医師をはじめとする女性医療従事者の離職防止・復職支援を図るため、相談窓口などの支援体制の構築や働きやすい施設の整備等に取り組めます。	18	医療従事者が、安心してキャリア形成しながら地域医療に従事できる環境を整備する必要があります。							フレキシブル勤務、院内保育、女性医師専用更衣室などの働きやすい環境を整備しています。		○	・H28年7月27日(水)~7月29日(金)看護師再就業支援セミナーを実施。 ・女性医師に対して、個人の事情にあった働き方の提案を行っている。 ・病院附属保育所を開設し、産後安心して働ける体制を整備している。 ・子育て支援に取組み、次世代育成支援認定「くるみん」の認定取得を予定している。										寄附講座により研修指導医となれる医師を確保している。		
		19	医療従事者が、生涯を通じてやりがいを持って働き続けることができる環境が必要です。							スキルスラボの充実や内視鏡道場など、各種トレーニングコースを用意しています。また職域研究制度や科学研究費の申請も可能で、リサーチマインドをもった臨床医として働くことが出来ます。															
21	県や関係団体は、医療従事者の質の向上や県内定着を促進するため、連携しながら、各種研修会やセミナー等の開催など学習環境の整備に取り組めます。	18	医療従事者が、安心してキャリア形成しながら地域医療に従事できる環境を整備する必要があります。																					寄附講座により研修指導医となれる医師を確保している。	
		19	医療従事者が、生涯を通じてやりがいを持って働き続けることができる環境が必要です。																						
		20	認知症を正しく理解し、対応できる医療従事者等の人材育成が必要です。																						
		21	在宅医療に携わる医師・歯科医師等医療従事者の充実を図る必要があります。							宇摩歯科医療連携室所属の歯科衛生士が介護施設に出向し、口腔ケアの実地指導を行っている。															
22	県や市町、関係団体は、地域住民の適切な受診行動を促進するため、適切に情報を公表するとともに、普及啓発に取り組めます。	22	当構想区域内各地区の医療提供体制の維持・確保のためには、受診行動に必要な情報を地域住民が適切に理解していることが求められます。																						医療機関ごとの役割分担について、HP及び市報等により市民への意識啓発を実施している。 小児救急の意識啓発のために作成したDVDを活用するため、急患センター及び小児検診時に放映している。また、希望診療所にTVを移動設置している。
23	大学医学部との連携による寄附講座を開設し、派遣医師による診療支援のみならず、当構想区域内の医師に対する救急時の初期診療の指導や、医学生・研修医等に対する教育を行うことにより、既存医療資源を活用した人材の養成や確保を図ります。	17	喫緊の課題である脳神経外科・循環器科等の医師をはじめ、救急医療を担う人材、地域医療に必要な医療従事者を確保するとともに、当構想区域内への定着を促進する必要があります。							寄附講座(地域医療分野)の呼吸器内科医師をベースにして、東中予および西讃で不足している呼吸器診療を担うための呼吸器センターの設置を計画しています。本年4月から一名の専門医が赴任予定です。														平成22年より、愛媛大学医学部地域医療再生学講座よりサテライトセンターに医師派遣を受け、日々の診療のみならず、市内医療関係者への啓発・教育活動を行い、人材育成に務めている。	
		18	医療従事者が、安心してキャリア形成しながら地域医療に従事できる環境を整備する必要があります。							寄附講座(地域医療学、地域医療人材養成学)の教官による、スキルスラボをもちいたACLSや内視鏡道場など、各種トレーニングコースを用意しています。また職域研究制度や科学研究費の申請も可能で、リサーチマインドをもった臨床医として働くことが出来ます。		○												寄附講座により研修指導医となれる医師を確保している。	

